

令和6年度第1回資金管理委員会議事録要約

[開催日時] 令和6年8月19日(月) 13時00分～15時00分

[開催場所] 兵庫県庁2号館2階会議室

[出席者(会長◎)]

- ◎ 甲斐 良隆 京都情報大学院大学教授
- 石川 智久 株式会社日本総合研究所 調査部長/チーフエコノミスト
- 開本 浩矢 大阪大学大学院経済学研究科教授
- 藤原 賢哉 神戸大学大学院経営学研究科教授
- 水上 拓也 地方公共団体金融機構 地方支援部 参事
- 米田小百合 公認会計士

※ 五十音順(会長除く)

1 令和6年度民間資金の調達

- グリーンボンドを中心に地元のためにお金を使いたい個人・法人はいると思うので、県内IRは良い取組。積極的に取り組んでいただきたい。
- 銀行等引受債のベースは預金であり、預金金利の変化は債券と比較して緩やかなので、今は金融機関が良い条件を提示し易くなっていると思う。市場公募債との条件面での差異に留意し、安定調達に努められたい。

2 関連公社等の資金運用状況

- 過去の問題についてはかなり解消されている。指針適合外商品を保有する3団体についても、大きな問題は無いと考える。
- 金利のある世界になった今、指針の運用対象を緩和して、収益性を高めてもいいのではないかと。

3 近年の市場環境の変化と今度の課題について

- これまでは仕組債等の運用リスクに集中して議論してきたが、金利が変動する中で発生する別のリスクについて、整理して団体に提示する必要がある。
- 運用対象を緩和する場合は、より積極的に相談・勉強していただく必要がある。研修参加の義務づけなど、人材育成面の強化を合わせて行う必要がある。